

## アルザス史 11 第二次大戦終結とフランス化

志村 良知

第二次大戦は終わった。エルザス・ロートリングンはアルザス・ロレーヌに戻り、5年間大官区長ヴァーグナーの偏執狂的熱意が支配したナチス・エルザスのフランス化が始まる。

フランスによる司法・行政・立法の回復。戦争犯罪人、ドイツへの協力者への摘発と処分（正式裁判の他にリンチもあった）。シルメック収容所の解放（外国人やドイツ本国人を含む生き残り収容者は7000人あまり）。人（ファーストネーム）、町、通り、建物の名前の変更（元に戻すだけでなく、多くの新しい名前も採用された）。総合化学会社のデグサ社など進出ドイツ企業の処理。協力とまでいかなくともドイツ占領下を享受した人たちの処置、これは難しい問題で、それにまつわる誹謗中傷や心の傷は後々まで残った。

ボージュの向こうの「フランス」からは、アルザスのフランスへの忠誠心の薄さと5年間ナチスに支配されたという事実の矯正のために、ドイツと特に縁深い町や村は個人レベルにまで解体し、バラバラの個人にして南フランスに移住させ、南フランスの純フランス人を交替・入植させろという凄惨な案まで堂々と出された。これはさすがに実施されなかったが、こんなことを言われてアルザス人がフランスを好きになるわけがない。

ドイツ占領下のアルザスに帰るのを拒否した人たち、逆にドイツ的でないとして南フランスに留め置かれた人たち、ユダヤ系の人たち、の帰郷、そういう人たちと強制疎開の対象外だった人たちや1940年のドイツ化で帰郷した人たちとの土地家屋を含む財産権問題。

戦前に、あるいは疎開地からフランス軍に徴兵されていた兵士、逆に占領中にドイツ国防軍に徴兵されて東部戦線に送られソ連の捕虜になっていた兵士（マルグレ・ヌー）の帰還。

どれも元のアルザスに戻すというだけでなく、文字通り十人十色で違うそれまでの過酷な境遇の差によって生まれる争いや軋轢や反目を融和・緩和していくという長期に亘る一大事業だった。ソ連の捕虜になったアルザス人兵士がシベリアで作ったバラックの一部は、アルザス人が帰還した後、抑留日本人の宿舎になったという日本との悲しい関係もある。

さらに、ナチス武装親衛隊 SS（これは国家社会主義ドイツ労働者党総統アドルフ・ヒトラー一個人に忠誠を誓うヒトラーの私兵組織で『ドイツ国防軍』とは別物。入隊は志願者限定だった。戦後の戦争裁判では『共同謀議』により非人道的犯罪を行った組織、という概念が導入され裁かれた）に入隊し、フランス本土で連合軍と戦ったアルザス人兵士の戦犯裁判もあった。SS 第2 機甲師団「ダス・ライヒ」には南フランスの焼き物の町リモーージュ近くの「死

の町；オラドール・シュル・グラヌ」での町民虐殺の実行者として起訴され死刑を求刑されたアルザス人兵士14人がいたが、長い裁判の末最終的に恩赦を受けた。この恩赦はさらなるアルザスとオラドールの対立を呼び、オラドールとの政治的手打ちはようやく1998年に行われた。

沖縄では現在でもかなり深刻な問題であり、東京でさえ時々大騒ぎになる不発弾の処理はボージュ山中から平原や市街まで、第一次大戦の物や地雷も含めて完全に終わっている。これも大事業であつたらしい。ボージュ山中にはハイキングコースが張り巡らされ、クレタ街道沿いには、あちこちにお花畑が広がり、ミルティューユ摘み（蔓性のブルーベリー；味が濃くおいしい）、キノコ狩りなどで道路を外れて草原や森に入っても安全である。

ただ、森林の樹木にめり込んだ弾丸や砲弾の破片の処理は不完全だという話は聞いたことがある。これは伐採・製材時に動力鋸に当たると非常に危険であるらしい。

不発弾と違って、現代のアルザスの住民の心の中の第二次大戦の戦後処理というのは、まだ終わっていないのだという。赴任して間もないころ、町の名士でもある工場長に、これは一般論として皆に言っているとして忠告されたのであるが「たとえ親しくなったとしても、アルザス人に家系としてドイツとどういう関係であるか、親世代や家族が戦争中と終戦直後どこで何をしていたかは、向こうから切り出さない限り絶対に訊くな」とのことであった。

#### 『戦ひのあとに少き燕かな 子規』

既に健康を害していて、成果は無かった正岡子規の日清戦争従軍記者時代の句である。

夏になるとアルザスの野にシンボル鳥コウノトリがアフリカから飛来する。第二次大戦の戦火で町から追われたコウノトリが、戦後初めてコルマール・センターのシャム・デ・マース公園に舞い降りたのは2001年のことで、大ニュースになった（私のアパートの目の前だったので見に行き行って並んで歩いて記念写真を撮った。この時は、交通事故や犬猫の襲撃から守るために間もなくケージに保護されてしまった）。そして2003年、ついに町のシンボルであるカテドラルの屋根に巣作りするカップルが出現、無事雛を孵した。帰任後だったが、この時たまたまコルマールを訪問中だった私もこの光景を目撃した。コウノトリさえ町に戻ってくるのに戦争終結から実に60年近い年月が必要だったのである。